

世界最大の黄金仏

ワット・トライミット (タイ)

世紀の発見、無住の廃寺から現れた 120 億円の仏像
カトリック国ポーランドから、宗教を越えた平和を祈るクリスチャン

地方から来た
どけない小僧さんたち
またあ



黄金仏が祀られる、ワット・トライミット



お寺からも見える街のシンボル、中華門



デザイン性の高い、金と赤で装飾された釣鐘

中華街で賑わう、お城のようなお寺

バンコクのチャイナタウン、ヤワラー通りにはこのエリアのシンボル中華門がそびえ立ちます。この活気にあふれる街で更に賑わっているのが、13世紀の中頃に建立されたお寺、ワット・トライミット。白を基調に複数の金の屋根、中央の尖塔は天高く、まるでヨーロッパのお城のようです。

タイのお寺としてはそれほど広くはありませんが、本堂の二階と三階は資料館になっていて、中華街の歴史や仏像の構造や作り方を学ぶこともできます。

近年は改装されてこんな美しいお寺となりましたが、その昔は特に目立つこともなく、近所の華僑の方々がお参りする程度の普通のお寺でした。

ところが現在はタイ全土だけでなく、世界中の観光客が訪れる名刹となっているのです。



これが世界最大の黄金仏、輝きが違います



とても評価の高い、豪華な天井も必見



境内には、他にも美しい仏像がたくさん

偶然発見された、世界最大の黄金仏

ここには約700年前に造られた仏像が祀られています。そしてこの仏像こそが、世界最大の黄金仏なのです。金箔で覆われている仏像は数多くありますが、この仏像は全てがトーンノパクンというほぼ純金。高さは3メートル、全重量は5.5トン、時価総額では120億円とも推定されています。

そしてこの黄金仏、なんと昔は僧侶もいない廃寺に粗末に置かれていたのです。なぜこれほどの黄金仏がそんな扱いだっただかという、当時はビルマ軍からの略奪から守るために、黄金仏はカモフラージュされ、黒の漆喰が塗られていたのです。

1953年、この廃寺を工事することになった時、この仏像をクレーンで移動しようとした。クレーンで持ち上げた仏像は見た目以上に重く、工事を中断、その日は仏像を外に放置しました。ところが、その夜は大嵐。仏像は強い雨と風にさらされ、塗られていた漆喰がはがれ、そこから黄金の仏像が現れたのです。

これは世紀の発見とされ、タイ全土がお祭り騒ぎに。1991年にはギネスブックにも認定されました。

カトリック国、ポーランドから

この日も様々な国の方々が訪れていました。そんな中、ポーランドから来たお二人からお話を伺うことができました。ポーランドは国民の95%がカトリック、この割合は世界一とも言われます。クリスチャンの方々はタイのお寺でどんな感想を持つのでしょうか。

キリスト教では、亡くなると天に召され神と一緒にあります。仏教では生まれ変わりという考えですね。それらの違いはあります。でも、人のミスを許してあげること、隣人に親切にすること、こうした教えは宗教は異なっても共通していることでしょう。

いちばん大切なのは、ポーランド人も日本人もタイ人も、どの宗教であっても、同じ人間であること。お互いを認め合って生きていくことです。



宗教を越えた平和を祈る、ポーランドのお二人

そして残念なことは、宗教の違いによって争いを起こすことです。昔も今も多くの戦争の原因は宗教です。宗教を発端に人が亡くなることはとても悲しいことです。世界中の人々が、お互いの思想を尊重できる世の中になれば、世界はもっと平和になるはずですよ。

たくさんお話ししてくれましたが、一番気になるのは、ワールドカップで日本と同じ組となったこと。「キーパーは上手いの？キーパーは誰なの？」と、質問攻め。まだ発表前、どうなるんでしょうね？

齋藤 浩司 (さいとう こうじ)

株式会社B-WAY グループ 代表取締役

互助会から葬儀社を経て2001年同社創業。2002年に葬送支援NPO法人を創設。2010年には宗教法人を新規認証。CSR活動として、

2007年お寺で余ったお供え物を困窮世帯へ届けるフードバンクを設立。2013年からは東南アジアの貧しい子ども達への生活・教育支援を開始し、現在はカンボジアのスラムで孤児院と幼稚園を運営。活動時に各国の聖地を訪れ、宗教家や現地の人々から文化を学んでいる。東京都新宿区出身。

